



## トンネルで遊ぶ子どもが私に教えてくれたこと

中部学院大学子ども学部 教授  
 西垣 吉之

＜4歳児の子どもの姿から＞ ある園の運動場の中央にあるシュロの木やぼうしが鬱蒼としげっている所に一部、トンネルのような穴ができています。子どもの大きさと、ちょうどそのトンネルを通れるくらいの太さがある。このトンネルは出口がなく行き止まりらしい。4歳児T君がその中に入っていった。しばらくすると、入り口兼出口から勢いよく飛び出てきた。表情を見ていると、そのトンネルの暗さ、あるいは狭さ、葉や枝が体に当たる感触などが怖かったのか、かなり緊張した面持ちであったが、出てきた瞬間に誇らしげな表情に変わる。その様子を見ていた私が「もう一度トンネルくぐってみてよ！」と言ったかと思うと、何の躊躇もせず入っていき、出口から出てくる時は、さっきよりも緊張感がとけた表情だった。

子どもは活動を展開していく中で様々な心の動きを体験しているのです。このトンネルの活動でも、T君はいろんな感情を味わったことでしょう。少し不安な気持ち、先の見えない真っ暗な中を進む時の恐怖心、出口の光をみてワクワクする気持ち。こうした様々な心の動きを感じる場が、遊びの場なのです。こうした積み重ねが子どもの「心」を形づくり、その子の心の動かし方に、ある傾向を与えていくのです。保育者をしている人間は、そうした子どもの心の動きを言葉に置き換えるように勤めています。そうすることで、その活動が、その子にとって自覚化され、意味あるものになっていくのです。

もう少し、この活動について考えてみましょう。トンネルに入る時、T君にとって、そのトンネルはどこまで続くか分からない得体が知れないものだったに違いありません。得体がしれないという意味では、大げさに言えば、T君の将来、つまり人生そのものなのかもしれません。今の自分が身を置くこのトンネルから、いずれ出ることができるのだろうか？ いつまでこの暗闇が続くのか？ いずれ自分に光は差されるのだろうか？ 実は、人が生きていくためには、こうした不安や恐怖、焦燥といった負の感情を持ちこたえていかなければなりません。

こうした負の感情を持ちこたえられるようになるために大切なことは何だと思われますか？

- ①ひとつは、「何とかなるさ！」という楽観的にものごとを捉えられる力だと私は思います。そうした楽観的な思いはどこから大人の手を借りて、助けてもらったり、心地よい気持ちを味わわせてもらう体験が基盤にあるような気がします。
- ②また、何かが起こったとしても、また課題にぶつかったとしても、あきらめずに突き進もうとする気持ちも大切だと思われませんか。実は「あきらめない」という気持ちも、その子が小さい頃にその子の課題と一緒に乗り越えてくれた大人の存在なくしては形成されない態度だと思うのですがどう思われますか？
- ③また恐怖を乗り越える気持ちを持ち合わせていなければなりません。子ども達は大人が意外に思うようなことに恐怖心を抱きます。それは、「無知」だからです。知らないことこそ恐怖心が生まれます。これは誰しもが体験することです。すると、「知」を与えることも大切な大人の役割だと思えます。
- ④さらにこんな体験も必要だと思えます。暗闇の中に自分が於かれているときに、光が当たることで、ほっとしたり、安心したり、ワクワクしたりする感情を味わったことがあると、「いつかはきっとこの闇から脱出できる」という期待が生まれてくるのだと思います。

このように考えると、子どもが育つ基盤には、やはりいろいろな類の【心地よいという感情】があるような気がします。子どもは【心地よさ】と【心地悪さ】の間（はざまを）を行きつ戻りつしながら生活しているのです。大人もそうですよね。心地悪い感情を味わったときに、またいつか心地よさがやってくると思えるから生き続けることができるのです。あるいは、積極的に心地よさを創り出そうと動き始めるのです。こうした気持ちの動かせ方ができるためにも、小さいころに【心地良さ】を十分に味わってほしいと思います。

しかし、子どもが心地よさを感じるためには、まず大人から働きかけていかなければならないということを忘れていただきたいと思います。大人に「してもらって体験」「満たされる体験」を通して心地よさを十分味わった子どもは、自ら、その心地よさを求めて動きだそうとします。自ら動き出した子どもを、援助し支えていくことが、大人の役割であり、それこそが「乳幼児が育つこと」であり、子どもが一人の主体として生きていく基礎を築くことなのです。

# 2013 年度を振り返って

今年度も、たくさんの子どもの笑顔・学生のおはなし・地域の方々の笑顔に触れることができ、大勢の方々との嬉しい出会いもたくさんありました。そんな一年間の思い出の一部をご紹介します。



## 春



### おはなし広場 (毎月第1火曜日)

毎日のおはなしの時間を拡大した催しで、大型絵本・パネルシアター・ペープサート・エプロンシアター・紙芝居など。参加するお子さんの年齢や興味関心によって毎回内容を決め、みんなで楽しみました。



楽々子育て戸外で遊ぼう！  
「ママと一緒にみい〜つけた！」

### 子育て実践プログラム

年間10回のプログラムで、学内各分野の専門家が講義や講座を開きました。専門ゼミ生も加わったりして季節に応じて多彩なプログラムを楽しみました。



子育てにいっぱいふれあいタイム  
～わらべうたで親子楽しくコミュニケーション～  
Daitymple 親子教員



### お母さんのためのリフレッシュ講座

子育てを離れた趣味の講座です。今年は少し手の込んだ作品をそれぞれが時間をかけて仕上げました。帽子・マフラー・おもちやと内容も多彩になりました。



作品例・フルフル絵本

### 玉ねぎの収穫 ラ・ルーラ畑にて

昨年秋に植えた玉ねぎを力いっぱい引き抜きました。



## 夏



### 夏祭り

学生企画の夏祭りが更に盛大に開催。遊びのコーナーと屋台、櫓を組んで盆踊りも楽しみました。浴衣姿で300人余りの参加がありました。



### 赤ちゃんサロン

(毎月最終木曜日)

赤ちゃん(0歳児)とお母さんと一緒に過ごすおしゃべりサロンです。絵本を見たり、身近な物でおもちゃを作ったりしながら楽しい時間を過ごしました。



### 移動図書館

毎月各務原キャンパス図書館より、本の紹介や読み聞かせに来てもらいました。今年は経営学部の学生もボランティアに来てくれました。



### 誕生会 (毎月最終金曜日)

当月生まれのお子さんをみんなでお祝いしました。



### ゼミでの発表 : 西垣ゼミ

ゼミで製作した保育教材を実際に発表し、子どもたちは楽しみ、学生は学びへと繋がりました。



# 秋



**いもほり ラ・ルーラ畑にて**  
 毎年恒例となってきた芋ほりをみんなで楽しみました。それぞれ持ち帰ったイモで、ふかしイモやスイートポテトを作ったと話題も広がりました。



**「英語で遊ぼう！」**  
 子育て実践プログラムから発展して生まれた企画。授業で取り組んだ教材を使って英語に親しみました。



**ランチタイムコンサート(毎月 3回)**  
 吹奏楽部有志(子ども学科 1・2・3年生)による生演奏。学年毎に趣向を凝らし、毎回楽しい催しとなりました。毎月楽しみにして参加されるファンも多くなりました。

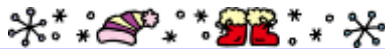


**げんきサロン (毎月1回)**  
 2歳児のお子さんを対象とした親子サロンです。元気に動き回って遊びました。



**学びの森フェスティバル**  
 各務原市と協賛の秋の文化祭です。

# 冬



**「お店屋さんごっこ」**  
 みんなで作った商品をたくさん並べて売り買いし、ごっこ遊びを楽しみました。「いらっしゃい!」「これください」など元気な声があちらこちらで聞こえていました。



お正月遊び・カルタとり

**みんなで遊ぼう!(毎月第二土曜日)**  
 ボランティアサークル(学生)企画の遊び広場。参加する子どもの年齢・季節などいろいろ考えて内容を決めました。



**にこにこ広場 (毎月1回)**  
 1歳児のお子さんを対象とした親子遊びの広場です。親子1対1でじっくりいろいろな遊びを体験しました。



**クリスマス会**  
**節分(まめまき)**  
 学生を中心とした季節の行事や催しも数多く開催しました。



鬼の的当て





<ラ・ルーラ開設日> 火・水・木・金・土曜日 (時間 10:00~16:00)



催しがあるときも ラ・ルーラ内では自由に遊べます。

4 月の予定						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 救命救急講習 13:00~
6 休み	7 休み	8	9 げんきサロン 10:30~11:30	10	11 11:00~ 移動図書館 (読み聞かせ)	12 みんなで遊ぼう! 11:00~12:00
13 休み	14 休み	15	16 にこにこ広場 10:30~11:30	17 10:30~ お母さんのための リフレッシュ講座	18	19
20 休み	21 休み	22	23	24 赤ちゃんサロン 10:30~11:30	25 4月の誕生会 12:30~13:00	26
27 休み	28 休み	29 休み	30			

来年度の各サロンや行事の内容は、更により良い内容にと考え、見直しも含め検討しております。

3月下旬頃、ラ・ルーラ室内に掲示します。お気軽にお問い合わせください。

電話：058-375-3605 FAX：058-375-3609



今年もたくさんみなさんの笑顔を中心に、多くの方との出会いがありました。  
小さな子どもを中心としたたくさんの出会いから、地域の方々との出会いへと広がり  
それが更に大きな繋がりへと広がりました。

そんなみなさんのたくさんの笑顔に支えられながら  
ラ・ルーラも一緒に歩むことができました。

これからも出会いを大切にしながら繋がりを深め  
皆さんと一緒に歩めるラ・ルーラでありたいと思っています。

一緒に元気に過ごせることの幸せを感じ  
皆さんに感謝すると共に  
来年度もどうぞよろしくお願ひします。

